

黒毛和種種雄牛「北国栄」号

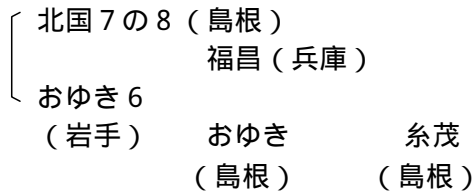


畜産センター肉用牛研究所

本県にいなかった「北国7の8」号系統の黒毛和種種雄牛を造成した。造成された種雄牛「北国栄」号は、枝肉重量、ロース芯面積は県平均レベルであったが、脂肪交雑については非常に高い遺伝的能力を持っていることを示した。

「常陸牛」生産に大いに資することが期待される。

「北国栄」号の血統



「北国栄」号の推定育種価 (平成16年3月現在)

	枝肉重量 (kg)	ロース芯面 ()	脂肪交雑 (BMS)
北国栄	-5.915	0.89	1.578
県基準値	403.4	49.36	1.196

1) 県内の平均レベルの繁殖牛に「北国栄」を交配して生産された子牛の肥育成績は、脂肪交雑が4等級以上に格付けされる確率が非常に高い。

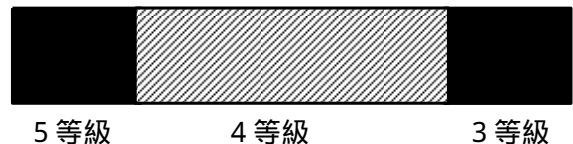
現場後代検定18頭の成績で、脂肪交雑等級が、「常陸牛」に認定される4, 5に格付けされたのは、供試牛の78%に当たる14頭であった。

供試牛を生産した母牛18頭の脂肪交雑育種価評価は、Aランク3頭、Bランク3頭、Cランク12頭で平均以下の能力の牛が多かった。

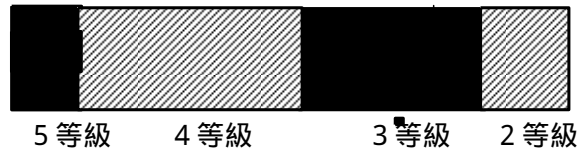
平成16年3月現在、「北国栄」の脂肪交雑の育種価は、+1.6であった。父「北国7の8」の+1.7や「福栄」の+1.8, 「美津福」の+1.7, 「平茂勝」の+1.8と比べて遜色のない評価であった。(育種価は茨城県での数値。)

期待される子牛の脂肪交雑(期待育種価) = 「北国栄の育種価」/2 + 母牛の育種価/2

「北国栄」号の脂肪交雑格付等級の分布



「北国栄」号の枝肉格付等級の分布



2) 「北国栄」号の枝肉重量、ロース芯面積の育種価は、県平均レベルであることから、増体能力の良い繁殖雌牛への交配が推奨される。

「北国栄」の枝肉重量、ロース芯面積の育種価は、各々 -6kg, +0.9 で県内の平均レベルであった。従って、平均レベルの繁殖牛に交配すれば、県の基準値である400kg, 49の肥育成績となる。

枝肉重量、ロース芯面積の育種価評価AランクあるいはBランクで、脂肪交雑においてBランクあるいはCランクとされている繁殖雌牛へ交配が適当である。

3) 交雑種生産のための乳用種への交配は、「北国栄」が脂肪交雑において非常に高い能力を持っていることから、良い結果が得られるものと考えられる。

注：肉質等級は、脂肪交雑、肉の色沢、肉の締まり及びきめ、脂肪の色沢と質の4項目で判定されます。4項目が各々格付けされ、そのうちの最も低い等級に決定されます。

注：育種価評価 育種価の上位1/4がA、~1/2までがB、平均以下がCランクです。

<問い合わせ先；畜産センター肉用牛研究所改良研究室 電話0295-52-3167>